

19 de febrero de 2012

関西学院大学梅田キャンパスハブスクエア

Taller 1(Introducción)

## ¿Qué novedades hay en la Nueva gramática?

### 『新文法』の何が新しいのか

#### Taller 1 実施概要

今回の Encuentro では、Taller2, Taller3 の担当者がそれぞれ名詞の性および形容詞をテーマに選んだことから、会全体のテーマを「名詞句」の範囲に絞ることにした。初級段階のスペイン語教授においては、2012 年末に出版された『基礎新文法』がハンディで役立つだろうという考えから、『基礎新文法』にける名詞句の説明の部分に焦点化していく形で、15 分程度のイントロダクションを行った。

要旨は次の点にまとめられる。なお、ここでは、特に明記しない場合『新文法』は『基礎新文法』の内容を包含する。

- ・『新文法』では、スペイン語は多様であり、複数の基軸を持つ言語とされている。
- ・『基礎新文法』は『新文法』よりやや規範性が強い。
- ・『新文法』では、文法の、言語の他の領域との関係に言及している。

・『基礎新文法』は、限定詞(determinantes, determinativos)を品詞として認定し、冠詞をその下位範疇としている(『新文法』では冠詞を品詞としており、所有形容詞前置形、指示形容詞とともに、範疇横断的に限定詞という用語でまとめている)。限定詞という範疇は、品詞を意味からよりむしろ統語関係で定めているものであると言える。

・『新文法』では、統語グループ(句)の構造的記述が詳細に行われている。Esbozo(1973)以前のアカデミアの文法では、句という統語単位はほとんど注目されていなかった。

・名詞句については、核となる名詞と、限定詞および修飾語・補語との関係が述べられている。補語については、名詞が要求する項補語と、任意の付加補語の説明がある。

本発表の後に参加者より、『新文法』における文法の記述は、スペイン語学の研究者にとっては目新しいものではないし、他の文法書と比べて特筆すべきものでもないというコメントがあった。担当者も、文法記述そのものの新しさは感じていない。ただし、学校文法との関連が特に強いアカデミアの文法記述における変化を、スペイン語教師が知ることにより、教科書の文法記述の在り方を見直すことができると考える。「句」の概念の明確化は文法教師の背景的知識として有益であろう。

イントロダクションという性質と時間の短さから、『新文法』の内容の紹介に終始したが、紹介する内容を短くして、参加者とのやりとりの時間をもう少し設けることもできたかもしれない。今後のための反省材料としたい。

以下、当日の配布資料である。後の活動などで参照できるよう、プレゼンよりも網羅的に書いている。

## 配布資料

### 1) 『基礎新文法(NGB)』とは

#### ・歴史

1931 *Gramática de la lengua española*

1973 *Esbozo de una nueva gramática de la lengua española*

2009 *Nueva gramática de la lengua española* 『新文法』

2010 *Nueva gramática de la lengua española: Manual* 『新文法簡約版』

2011 *Nueva gramática básica de la lengua española* 『基礎新文法』

#### ・『新文法』の新しさ

- ・スペイン語の多様性（共通性と相違）を踏まえた文法
- ・規範性：複数の軸，推奨される言い方

#### ・『基礎新文法(NGB, Básica)』

- ・想定された読者：「初等・中等教育で一通り習った上で、自分の言語の機能をよりよく理解したいと願う、幅広いスペイン語話者」

“Esta versión se dirige expresamente al amplio espectro de hispanohablantes que, habiendo recibido una primera instrucción en sus estudios de primaria y de secundaria, deseen acercarse a comprender mejor el funcionamiento de su lengua.” (NGB: xvii)

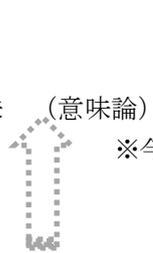
- ・「記述的次元と規範的次元を両立させる」（他の2冊と同様）
- ・「主に標準的なスペイン語に焦点（他の2冊と相違）  
：個々のケースではスペイン語話者の中で多数派の、教育を受けた人の言い方を選択」  
⇒ 「みんなの文法をめざす」

“Al igual que las otras dos versiones, la Nueva gramática básica de la lengua española conjuga la dimensión descriptiva con la normativa; pero, a diferencia de ellas, se centra principalmente en el español estándar y elige en cada caso las opciones cultas mayoritarias entre los hispanohablantes. Aspira, en definitiva, a convertirse en la gramática de todo el mundo.” (NGB: xviii)

### 2) 「文法」の定義とその構成要素

#### ・文法とは？

1. 語の構造（形態論）
2. 語同士のつながり方（統語論）
3. そのつながり方がもたらす意味（意味論）



※今回は「文（もしくは節）」は周皮的扱い  
「広義には音声学、音韻論も文法に含まれる」

- ・文法と密接に関係する他の領域：語彙意味論（＝語彙論），文の意味論，語用論

### 3) 語と句(Palabras y grupos sintácticos)

- ・語(palabras)（成句 locuciones を含む： *ojo de buey*: 円窓, *media naranja*: 伴侶）
  - ・形態論(morfología)の観点から：性(género), 数(número), 動詞の屈折(flexión verbal), 派生と合成(derivación y composición)

- 品詞(categorías gramaticales / clases de palabras)の観点から :
  - 形態, 統語, 意味的な分類 ※一義的な分類は困難
  - NGB の品詞の設定 : 名詞(*piedra, bondad*), 形容詞 (*fértil, digital*), 限定詞(*el, un, mi, algún*), 代名詞(*tú, alguien*), 動詞 (*vivir; estar*), 副詞(*antes, bien*), 前置詞 (*con, desde*), 接続詞(*pero, pues*), 間投詞(*caramba, oh*)
  - ※・ NGB では冠詞は限定詞の下位カテゴリーとしている。
    - NGLE, NGM では限定詞(determinante)を品詞でなく品詞横断的なカテゴリーとしている (NGLE: 1.9r; NGM: 1.4.2)。品詞としては限定詞でなく「冠詞(el artículo)」。
    - Esbozo, GRAE(1931)には「限定詞」という用語自体がない。
- 統語論(sintaxis)の観点から : 「句」を作る

- ・ 統語グループ = 「句」 (grupos sintácticos)
  - 「核(núcleo)」 (+修飾語 **modificadores**, 補語 **complementos**)

1 語以上で句となる “(la) mamá (de Luis)”

“*esa carta que me enviaron*” (名詞句の例)

└核

他の句に挿入されうる

*un cielo totalmente lleno de estrellas*

#### 4) 名詞句 (NGB:176-184)

- ・ 名称 : Grupo nominal/Sintagma nominal/Frase nominal
- ・ 定義 : 核が名詞であるような統語グループ (=句)
  - その[核の]意味にニュアンスを与えたり、制限したり、拡張するような修飾語/補語を取りうる
  - 句全体としては核 (名詞) の基本的特性を有する
  - 名詞に特徴的な統語機能を果たす (特に主語、直接目的語)
- ・ 核 (名詞) 以外の構成要素
  - 限定詞: *el profesor, esta autora, mis libros, algunas fechas*
  - 形容詞句・過去分詞の句: *aire muy frío, los boletos reservados*
  - 名詞句: *el doctor García; Raúl, el mejor jefe*
  - 前置詞句
    - ・ 前+名詞句: *lazos de colores, ladrones sin escrúpulos, viaje al círculo polar ártico*
    - ・ 前+名詞節: *la idea de que te vayas otra vez*
  - 関係詞の従属節: *objetos que faltan; el gato, que seguía allí*
- ・ 限定詞 (determinantes)について
  - 核との統語的關係 : 名詞 (とその補語) の前につく
  - 意味的な機能
 

{	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 影響する部分の意味の範囲を絞る</li> <li>・ 言及表現(<i>expresiones referenciales</i>)を形成する</li> </ul>
---	--

※不定冠詞も言及表現を作る？
- 種類と例

- ・冠詞 (*la novela*)
- ・指示詞 (*este dolor*)
- ・所有詞 (*mi perro*)
- ・量化詞 (*ciertos rumores, siete días*)
- ・関係詞 (*cuya paciencia*)
- ・疑問詞 (*¿Cuánto dinero [cuesta]?*)
- ・感嘆詞 (*¡Qué angustia!*)

・項補語と付加的補語 (Complementos argumentales y adjuntos del nombre)

- 項補語：ある種の名詞が、意味を明確にするために要求する表現
  - ・動詞の派生語 (*lectura de un libro, la carencia de médicos*)
  - ・関係・感情の名詞 (*el sobrino de Javier, el miedo al fracaso*)
- 付加的補語：名詞自身の[語彙的]意味が要求するものではなく、関係が項補語ほど緊密ではない
  - ・統語関係
    - ・形容詞句 (*decisión acertada*)
    - ・前置詞句 (*pastel de chocolate*)
    - ・名詞句 (*su aparición el martes pasado*)
    - ・副詞句 (*la llegada ayer mismo de los participantes en la regata*)
    - ・関係節 (*el resultado que esperamos*)

意味論的關係

- ・分類的解釈 (*una pasta dentífrica*)
- ・評価的解釈 (*árboles robustos, crudo invierno*)

統語・意味論的關係

- ・特定の補語 (*la casa nueva*)
  - ・説明的補語 (*Los niños, cansados, se retiraron.; María, que es muy intuitiva, lo adivinará.*)
- ※この用法は NGLE, NGM では名詞句の項に掲載なし

・同格

《A de B》 *el problema del tráfico*

《A B》 *el rey Lear; Isabel la Católica*

★終わりに★

- ・Academia(s)の『(新) 文法』と日本におけるスペイン語教育との関係？
- ・教育実践における、「句」の単位の利用の可能性
- ・名詞句の範囲（名詞句が関わる品詞、名詞句の構造、語形の選択等）で新しい議論が出る可能性

【参考文献】（出版年順ではありません）

- Real Academia Española (2009). *Nueva gramática de la lengua española*. Madrid: Espasa Libros.
- (2010). *Nueva gramática de la lengua española: Manual*. Madrid: Espasa Libros.
- (2011). *Nueva gramática básica de la lengua española*. Madrid: Espasa Libros.
- (1973, 1996). *Esbozo de una nueva gramática de la lengua española*. Madrid: Espasa Calpe.
- (1931). *Gramática de la lengua española: Nueva edición, reformada*. Madrid: Espasa Calpe.